

ロシア 東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2002年(平成14年)8月25日 No.1236

目次

EBRDロシア貿易・投資セミナー	1
エトセトラ	7
『ロシア技術ニュースレター』発行のお知らせ / 7	
シンポジウム「9.11から1年 - 中央アジアから世界と歴史を読み解く -」 / 7	
ロシア東欧貿易会関連の行事予定	7
C I S ・中東欧諸国通貨の為替レート	8

EBRDロシア貿易・投資セミナー

はじめに

7月12日、「EBRDロシア貿易・投資セミナー」が開催された（当会、EBRD、ジェット口の共催）。昨年に引き続き、EBRD（欧州復興開発銀行）の担当官が日本企業向けに、ロシア市場へのアプローチ、EBRDの役割・機能についてプレゼンテーションを行ったものである（昨年のセミナーの様子は当会『ロシア東欧貿易調査月報』2001年6月号参照）。

今回の速報では、7月12日のセミナーにおけるJ.ハーフィールド氏（EBRDロシア部副部長）によるプレゼンテーションの総論部分を抜粋して紹介することにする。

EBRDの活動実績

ロシアは広大な国であり、たとえばサンクトペテルブルグとウラジオストクの間には大きな格差がある。こうしたことから、EBRDはロシアに4つの拠点をもっており（モスクワ本部に加えサンクトペテルブルグ、エカテリンブルグ、ウラジオストクに事務所）、ロシアに常駐しているスタッフも50～60名に上る。ロシアにおける地域ごとの経済風土も異なっており、したがって地域ごとのビジネス・チャンス、リスクにも違いがある。日本企業がロシアの極東部で困難に直面したことも承知している。

EBRDは過去10年あまりでロシアに対して43億ユーロのコミットメントを行ってきた。こ